

教師と生徒が自主的に創り上げるプロジェクトの実践

学籍番号 219105

氏名 菅家靖史

大学院主指導教員 家近早苗

大学院副指導教員 田村知子

1. 問題と目的

わが国の人口は減少傾向にあり、2020年には出生数が過去最小となった。今後もさらに少子化が進むことが予測され、社会的・経済的な影響を及ぼすことが懸念される。実習校においてもその影響は多大で、私学としての生き残りを懸けた教育改革が急務とされ、「定員の確保」と「新たな教育の確立」に取り組んでいる。本実践研究では、生徒と教師が自主的に創り上げるプロジェクトの実践を行い、学校生活にどのような影響が見られるかを検討することを目的とする。そして、今後、生徒・保護者から選ばれる魅力ある学校づくりに繋げたい。

2. 研究内容

研究1・2 教師から見た学校の課題ならびに改善へのアプローチ

学校の課題を捉えるにあたり、まずは、生徒指導部会で、生徒指導部の教師を対象に学校の課題について検討した。その結果、生活指導面の課題と生徒の活動面での課題の2つに分けて捉えることができた。生活指導面での課題については、指導基準を明確化し、指導ラインを教師間で揃えること、不登校（ぎみ）や保健室に訪れる生徒に対しても、安心して過ごすことのできる環境や雰囲気づくりが大切であることなどが話し合われた。生徒の活動面の課題としては、以前の生徒と比べ、受動的な姿勢の生徒が増え、活力や粘り強さ、協働力、チャレンジ精神などの低下が見られた。また、コミュニケーションの苦手な子どもの増加がトラブルの増加にも影響していることが窺えた。

次に、生徒指導部以外の教師に学校の課題についてインタビュー調査を行い、分析した。その結果、5つのカテゴリーに分類され、1. 向上心を高める働きかけ、2. 他者との関わりを高める働きかけ、3. 主体的に考え、行動する力を高める働きかけ、4. 生きる力を高める働きかけ、5. 子どもを取り巻く環境へのアプローチが必要であることが分かった。そして、今後、生徒の自治的な活動の場である生徒会活動を活用し、課題の改善へ取り組むことが決まった。

今回、他者の視点を生かすことにより、課題がより明確になり、改善へ向けた意識や意欲が高まることが分かった。また、生徒指導部会を活用することにより、課題の改善へ向けた方針を定め、役割分担や協力体制を整えることができた。そして、組織として取り組むことの重要性を再認識できた。

研究3 生徒会活動を活用した取り組み

生徒会活動の中で、生徒が中心となり、新たな行事を作り上げることを実践し、その活動を通じて生徒や教師にどのような影響が及ぼされるかを概観した。話し合いの場においては、既存の行事に取り組んでいる時よりも、生徒の自由な発想が生まれ、積極的な姿勢やコミュニケーション、協働性の高まりなどが見られた。また、クリスマスイベントの実施が決まった後も、

子どもたち自らが何をすべきかを考え、計画的に進めている姿が見られ、今までの教師が主導的となり進めてきた行事の運営とは異なった生徒の活動の様子を捉えることができた。教師もまた、イベント当日の生徒の生き生きとした姿や表情、成長した姿を間近で感じることができ、喜びに繋がった。その結果、生徒の自治意識を生かすことにより、生徒や生徒に喜びや自信、充実感が高まることが分かった。

研究4 「ともにプロジェクト」の取り組み

「ともにプロジェクト」という学年の新たな取り組みを行い、そこでの生徒と教師の関わりや心の変化などを捉えた。このプロジェクトの目的は、生徒と教師が自主的に生き生きと活躍することができる場を創り、学校生活における充実感や満足感、所属意識、教師との関係性などを高めることにあった。

実際に、「ロッカー上のいきものがかり」では、共通の興味、関心がある「いきもの」をテーマに集まってきていることもあり、初期の段階からお互いの距離も近く、和気あいあいとした雰囲気の中で活動できた。実際の活動の場面においては、活発な発言や協力しながら分担している様子、リーダー的な役割を果たす子どもも出てきた。また、活動を通して、お互いを知るきっかけとなり、相互理解の場となった。また、2次的援助サービスを必要とする生徒も参加し、新たな繋がりができ、その支援につながる事が示唆された。

「人生を変える映画鑑賞会」では、生徒も教師も自己の考え方や思いを伝えることができる自己表現の場となった。また、お互いを知るきっかけとなり、相互理解の場になったといえる。そして、この共通体験が新たなコミュニケーションの構築につながり、生徒と生徒、生徒と教師の新たな繋がりをもたらすことにもなった。

このプロジェクトを通じて、生徒や教師、保護者との関係性において、情報の共有やコミュニケーションが促進され、それぞれの繋がりが相互理解が高まる可能性が示された。そして、教師の自発的な行動を引き出すことにより、教師の積極的な姿勢や、やりがい、充実感が高まる事が分かった。

3. 総合考察

今回、「教師と生徒が自主的に創り上げるプロジェクトの実践」を通して、教師・生徒の心の変化や行動の変化を捉えることができた。今後の課題としては、今後もこのプロジェクトを推し進め、教師・生徒の心や行動にどのような変化がもたらされるかをさらに分析し、生き生きとするための要因を捉える必要がある。

